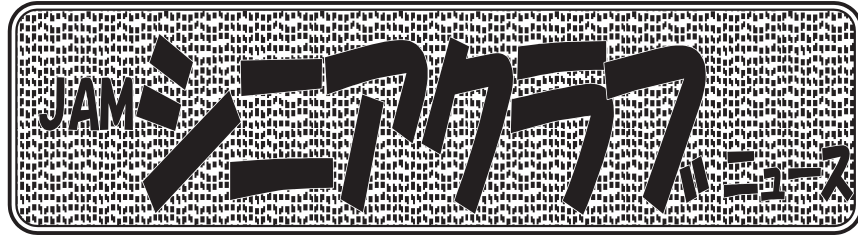


地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



第143号

発行日 2019年7月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本部内 〒105-0014 電話03-5440-7388 fax03-5440-7389

退職者連合第23回定期総会

安心して暮らせる社会に向け力強い前進を誓う
新たに野田那智子事務局長を選出

7月12日、退職者連合は連合会館で「当面する国政選挙を勝抜き、経済優先の政治から生活優先の政治に変え、生き生きと安心して暮らせる社会にしよう」をスローガンに第23回定期総会を開催、役員、代議員、傍聴など210人が参加した。役員改選では菅井事務局長が退任、野田那智子事務局長(自治労退職者会)が新たに就任し初の女性事務局長が誕生した。JAMの大山会長は引き続き幹事として承認された。

総会にはJAMシニアからは豊泉、大野、平木、地方退職者連合から畑山(千葉)、鈴木(富山)代議員が出席した。当日は参議院選挙期間中でもあり、各政党代表は欠席、変わって各々の政党からメッセーシが届けられた。総会の冒頭に人見会長は、7月21日投票日で行われている参議院選挙にふれ「連合10名の候補者の必勝を期して闘い、立憲主義、民主主義を取り戻さなければならぬ。安倍一



強政治に終止符を打つ選挙にする」と檄を飛ばし、退職者連合結成30周年にあたる今年、新たなアクションプランを策定し中央・地方一体となって300万組織達成への意欲を示した。また、2020年のNPT再検討委員会に合わせ、核兵器廃絶のための2000万署名を進めること、持続可能な社会保障をめ

JAMシニアクラブ
2020年度定期総会の開催

日時 2019年9月4日
場所 東京・友愛会館9階
議事

- (1) 2019年度活動報告
- (2) 2019年度会計決算報告及び監査報告
- (3) 2020年度活動方針(案)
- (4) 2020年度予算(案)
- (5) 新役員を選出

第25回参議院選挙の結果報告と御礼
ご協力ありがとうございました

JAMシニアクラブ会長 大山勝也

日頃のご活躍に敬意を表しますとともに、この間の政策実現の取組みへのご協力に心より感謝申し上げます。

さて、7月21日投・開票の第25回参議院選挙において、JAM組織内候補田中ひさやは、143,492票を獲得しましたが、善戦むなく議席を得ることは出来ませんでした。

JAMの政策を国会の場で実現してきた、津田やたろう議員の議席を奪還する大切な選挙であり、シニア会員の皆様方には「応援者カード」の活動をはじめ、今までにない取組みをいただきました。しかしながら、結果としてこれを果たすことが出来なかったことはJAMシニアクラブとしても痛恨の極みであります。

2年間にわたるシニア会員の皆様の献身的な活動に深く御礼を申し上げますとともに、今回の結果を真摯に受け止めながら、今後も現役と一体となって政策実現の取組をすすめていくことをお願い申し上げ、報告と御礼といたします。

連合組織内候補10名の結果(速報値)

国民民主党			
当	田村 麻美	UAゼンセン	260,324
当	磯崎 哲史	自動車総連	258,507
当	浜野 喜史	電力総連	256,928
	石上 俊雄	電機連合	192,586
	田中ひさや	JAM	143,492
立憲民主党			
当	岸 真紀子	自治労	157,848
当	水岡 俊一	日教組	148,309
当	小澤 雅仁	JP労組	144,751
当	吉川 沙織	情報労連	143,472
当	森屋 隆	私鉄総連	104,337

ざして「行動する退職者連合として活動すること」を強調した。連合の神津会長は「今は危機的な状況」として、50%そこそこから割るのではと予想される投票率の低さ、若い人ほど高い自民党の支持率や有権者意識の変化などの例をあげ「連合は立憲民主党と国民民主党と政策協定を結び、力合わせの姿をつくった。すべての働く者のためにしっかりと闘っていく」と現状打破への意欲を力強く語った。討議では2019年度運動方針や予算、政策制度要求、低所得高齢単身女性問題に関する政策制度要求などを承認、総会宣言を採択し閉会した。

都 第2回介護研修会を開催 自宅で受ける介護を学ぶ

伊藤 忠男 通信員

京都シニアクラブは5月16日(木)午後、今年も介護に関する研修会を開催した。今年



は「介護される立場になる前に今なすべきこと・住みなれた我が家で受ける介護の準備」と題し、自宅介護の心構えと準備、訪問介護の実態を学んだ。講師はJAMシニアクラブ会員の河本崇さん(島津退職者組合協議会)。河本さんは13年前父親の介護をする立場になつて思うような医療や介護が受けられない

現状を知り、自分で訪問介護ステーションを立ち上げた。講演では、介護を子供に期待するのではなく、自分が介護の実際をよく理解したうえで十分な準備をしておくことの大切さを解説された。自宅で受けることのできる介護サービスの内容とその費用、そのうち保険でカバーできる範囲、自己負担のために自分の財産を使うことを子供に理解させることとその管理の仕方と使い方。さらに自宅のトイレや冷暖

房などリフォームはどうすればよいのか等を具体的にお話しいただいた。講演の中で、ほとんどの介護サービスは自宅で受けられる反面その費用の大きさに驚き、自宅の準備の大変さに驚きというものが隠せない実感だが、人生の終わり方を今うちに自身の力で準備するのは当たり前であることに気付いた講演でもあった。河本さんが訪問介護ステーションを立ち上げたのは当時ヘルパーの給与水準が低く、これでは質の高

いサービスは期待できない事もきつかけであったそうだが、今でも介護ステーションの質の違いは大きくサービスの質の高い施設をシニ

アクラブが調査し会員に情報提供する仕組みが必要ではないかとも提案された。受講者から「介護施設に入る方が現実的、

こういった施設についての情報や入居の仕方なども知りたかった」という意見があったが、これは次回のテーマとして検討したい。

岐阜 関ヶ原の古戦場をウォーキング 天下をかけて戦った往事を思い散策

傍島 征夫 通信員

第6回JAM岐阜シニアクラブウォーキング大会が4月26日、関ヶ原古戦場(参加者数25名)で開催された。関ヶ原資料館前に集合した際には小雨がばら

石碑とのぼり以外に特に目立った史跡は見られない。だからこそ逆に当時の様子を忍ぶことが出来る。この場所に立つて周りを見渡してみると、周囲をぐるりと低層の山々に囲まれ、見通しの良い中をどのようにして戦ったのか改めて歴史の深さに感じ受けた。

茨城 田中ひさやの政策を学習 懇親会はババ抜きゲームで盛り上がる

井上 純一 通信員

6月5日、JAM茨城シニアクラブ恒例の交流会が開催された。参加者17名の内訳は

9時に神立駅を出発して送迎バスで会場に到着した。今回は会場が初めての筑波山麓国民宿舎「つくばね」で、既

の政策紹介が行われ、「ものづくり、ひとつづくり、くにづくり」政策の理解を深めた。今年

の第1位は東京製綱安齋弘さん、第2位に同宮崎さん、第3位に同野呂さん、第4位に同安斎辰さんで今回は

に染まった景観を見ながら山道を歩き、関ヶ原古戦場へと移動。慶長5(1600)年9月、石田三成率いるおよそ8万5千の西軍と

徳川家康の率いる7万5千の東軍とが天下をかけて戦った場所に着く。そこには天下の分け目と記した石碑が建てられていた。また三成が陣を置いた笹尾山まで少しといった場所には、古戦場の石碑と徳川家と石田家の家紋の入ったのぼりが風にはためいていた。

東京製綱9名、JVC3名、アイメタル2名、日本ファイリング2名、イケガイユニオン1名であった。参加者はJVCの2名は車で筑波山の国民宿舎「つくばね」に直行し、15名は

今回の会場が初めての筑波山麓国民宿舎「つくばね」で、既に関東茨城県連宮下事務局長の出迎えを受け、会場のテーブルに着座して茨城シニア斉藤事務局長の司会、開会挨拶の後高石会長から挨拶があった。



その後宮下事務局長から「田中ひさや政策ダイジェスト」をもとに夏の参院選JAM組織内候補の田中ひさや

終了後は日頃使いたない頭を休めるため入浴し汗を流した。入浴後の懇親会で結果発表。トップはAグループ

表彰式の後懇親会に移り、乾いた喉を潤したり、カラオケに興じたりと楽しいひと時を過ごし、14時楽しかった交流会も終え11月の総会での再会を期して終了した。

激していた。